

岐阜農林事務所の普及活動状況（令和8年6月）

新たな担い手の確保

■いちご（岐阜市）個別面談を開催

令和7年産の管内におけるいちごの出荷は、6月上旬に概ね終了した。これを受け、6月中旬から、就農5年目までの新規就農者および規模拡大を計画している生産者等を対象に、個別面談を開催している。岐阜市のいちご生産者については、6月15日、18日、25日の3日間にわたり、15名を対象に開催した。

面談では、JAぎふ（営農指導・融資・部会事務局の各担当）および岐阜農林事務所が連携し、令和7年産の栽培および経営状況について聞き取りを行うとともに、次作に向けた改善点等の検討を行った。また、規模拡大を希望する生産者に対しては、土地や資金の確保、今後の進め方等について助言を行った。管内の他地域については、7月以降、順次面談を実施する予定である。

新規就農者の栽培技術および経営の安定、並びに規模拡大は産地の発展につながることから、今後は面談で把握した生産者の意向を踏まえ、巡回指導を行い、目標達成に向けた支援を実施していく。



【個別面談で生産者の意向を確認】

（園芸産地支援第二係）

潜在力をフル活用した生産強化

■小麦（岐阜市）岐阜県麦作共励会県審査の実施

5月22日、岐阜県麦作共励会の県審査が岐阜市御望の小麦ほ場において実施された。今回審査を受ける生産者は、堆肥の活用や露地野菜と組み合わせたローテーションなどに特色がある。

当日は審査員に対して、農林事務所から栽培の概要や生育状況について説明した。今後経営に関する審査が予定されており、経営収支を聞き取りして審査資料を作成する。

今年度の岐阜地域の小麦は、冬期の高温傾向により生育が進み、出穂期は4月上～中旬と平年より5日程度早くなった。4月に降雨が続いたことから赤かび病が懸念されたが、適期防除を推進することで大きな影響はなかった。収穫も5月下旬～6月上旬と平年より早くなり、収量は昨年と比べてやや少なくなる見込みである。



【県審査の様子】

（地域支援第一係）

■ささげ・糸貫ささげ振興会 出荷目揃え会で規格を確認

5月29日、糸貫ささげ振興会目揃え会が開催された。十六ささげは県の「飛騨・美濃伝統野菜」に認証されており、本県の貴重な資源・財産の一つである。

糸貫地域では、いちご栽培後のハウスを活用した早期出荷が行われており、5月25日から出荷が開始された。

農林事務所からは、今年の生育状況を踏まえた栽培管理および高温対策のポイントについて説明を行った。

今後も「飛騨・美濃伝統野菜」として、生産および販売量の増加に向けた指導を行っていく。



【目揃え会の様子】

（地域支援第三係）

■えだまめ・ＪＡぎふえだまめ部会 えだまめプロジェクト始動！

岐阜えだまめは、年々単価が上昇しているものの、生産量は平成 29 年頃の約半分に減少しており、生産量の維持・拡大が喫緊の課題となっている。

昨年度には収穫機 3 台が導入されるなど、生産拡大に向けた取組が進んでいる一方で、農地の拡大や選果施設の老朽化、高温対策など多くの課題も残されている。

これらの課題解決に向けて、ＪＡぎふでは「チャレンジする園芸産地支援事業」を活用し、生産・販売の拡大に向けた実証に取り組んでいる。

6 月 19 日には、県えだまめ部会中央研修会が開催され、ＪＡ新潟みらいしろね えだまめ選果施設を視察した。同施設では、色彩選別機が導入されており、機械収穫に対応した選果体制について、意見交換が行われた。

さらに、6 月 24 日には、「岐阜えだまめ」に関わる関係機関が一丸となり、今後のえだまめ産地に係る対策を検討する「えだまめプロジェクト」が始動した。

農林事務所は、引き続き関係機関と連携し、えだまめ産地の育成、支援を行っていく。

(園芸産地支援第一係)



【色彩選別機による選果】

安心してできる農畜水産業と農村の環境整備

■地域計画（本巣市） 地域計画協議の場で活発に意見交換が行われる

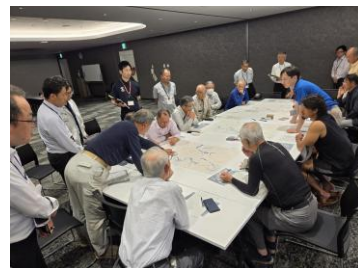
6 月 3 日、本巣市役所において、地元生産者等 16 名および関係機関が出席し、市内に 5 つある地域計画のうちの 1 つについて協議の場が開催された。

当該地域には、ほ場整備事業が終了したばかりの地区および今後ほ場整備が計画されている地区が含まれており、両地区の営農や担い手について話し合いが行われた。

特に、今後のほ場整備に関する事項については参加者の関心も高く、現状の課題や整備後の姿について活発な意見が出された。今回の協議内容を踏まえ、地域計画の変更が行われる予定である。

今後、農林事務所では当該地域のほ場整備後の営農計画等についても支援を行っていく。

(地域支援第三係)



【協議の場の様子】